記者発表資料

平成２５年6月２７日
浅瀬石川ダム管理所
津軽広域水道企業団

7月1日から「湖水循環（曝気）装置」の稼働を開始します
～かび臭の発生抑制を目指して～

平成２４年９月に発生した水道水異臭味「かび臭」問題では、９市町村約２３万人の水道利用者に影響が及びました。

この事態を受け、浅瀬石川ダム管理所は津軽広域水道企業団と連携を図り、専門家からなる「浅瀬石川ダム水質保全対策検討委員会」を設置、延べ3回開催し、かび臭の発生抑制に向けた緊急対策及び水質モニタリング計画、今後の水質保全対策等について検討を行ったところです。

この度、同検討委員会で緊急対策として了承された湖水循環（曝気）装置４基の設置が完了し、7月1日から稼働を開始することになりましたので、お知らせします。

また、当日は自治体水道関係者等に対して、現地説明会を開催しますので、合わせてお知らせします。

Ⅰ．現地説明会

①日　　時　　平成２５年7月1日（月）　９：００～１０：３０
②場　　所　　別紙のとおり
③現地説明会　・挨　拶　　東北地方整備局 河川部長
　　津軽広域水道企業団 企業長
　　・湖水循環（曝気）装置の概要・・・・・・・・・・浅瀬石川ダム管理所
　　・今後の運転計画及び水質モニタリング計画・・・・　　同上

※発表記者会：弘前記者会、黒石記者会、津軽新報社

○国土交通省　東北地方整備局　浅瀬石川ダム管理所
黒石市大字板留字杉の沢２（TEL　0172-54-8782）
管理所長　木村　信悦

○津軽広域水道企業団　津軽事業部
黒石市大字石名坂字姥懐２（TEL　0172-52-6033）
事務局長　泉谷　雅昭

現地説明会　会場案内



浅瀬石川ダム水質保全対策 緊急対策

国土交通省東北地方整備局
浅瀬石川ダム管理所

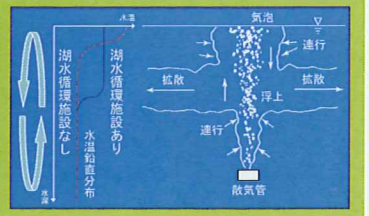
浅瀬石川ダムでは、平成24年9月に管理開始後初めて異臭味（かび臭）が発生し、津軽地域23万人の水道水に影響を与える事態が発生しました。

浅瀬石川ダム管理所では、問題発生以降、水質等の監視を強化し、津軽広域水道企業団と連携を図るとともに、学識者等による委員会を開催して水質保全対策を進めています。平成25年7月1日からは、湖水循環（曝気）装置の設置による緊急対策を行っています。

湖水循環（曝気）装置の効果

◎湖水循環（曝気）装置はかび臭対策における他ダム実績も多く水温低下効果が確認されています。

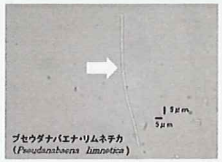
◎湖水循環（曝気）装置で湖水が循環混合した場合、表層水温は23℃から18℃まで低下すると試算されています。



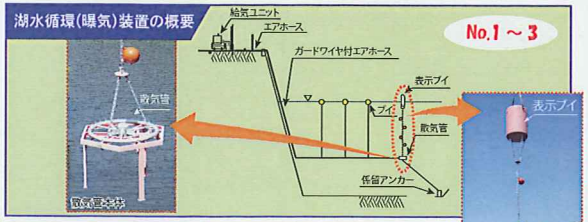
原因生物

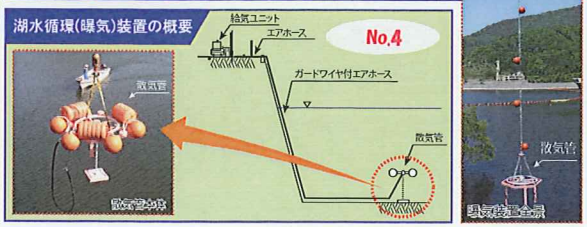
◎かび臭の原因生物は、藍藻類（藍藻綱ユレモ目プセウダナバエナ・リムネチカ）と特定されています。

◎平成24年は高い気温と少雨が続き、ダム湖表層で藍藻類の増殖に適した環境が続いていたと考えられています。



湖水循環（曝気）装置の概要





湖水循環（曝気）装置の設置箇所

湖水循環（曝気）装置の設置

◎湖水循環（曝気）装置は、細長い浅瀬石川ダムの形状を考慮し、効果的に湖水全体を循環させる観点により、4ヶ所に縦断的に配置しています。

